

1. 活動日程・会場

7月6日 - 7月13日 ドイツ連邦共和国 バイエルン州・Kloster Irsee

2. 活動の目的

本研究は、対談文とその対談を基に作成したパターン・ランゲージを同時に示す手法を提案したものである。この手法は、対談を読む読者の理解を助け、対談内に散らばる重要な秘訣やコツを読者が取り入れることを支援するものである。また、パターンランゲージを作成するに用いたエピソードや言葉をどこから取り入れたのかを証拠として示すことである。今回の活動では、ドイツで開催されるパターン・ランゲージの国際学会であるEuropean Conference on Pattern Language of Programs(EuroPLoP)で本論文を発表することで、専門家やその他の参加者から講評や具体的なアドバイスを得て、私たちの提案する手法の更なる向上を図ることを目的とする。

3. 活動の成果

今回の活動を行うにあたり、期待していた効果は2つあった。ひとつは私が提案する手法について専門家から多くのフィードバックを受けることである。そしてもうひとつは論文を議論する中でパターン・ランゲージの持つ本質的な特徴について理解を深めることである。

まず、前者について、期待以上の形で研究成果に対するフィードバックを得ることができた。今回はEuroPLoPが20周年ということもあり、例年以上の参加者でかつアカデミックな分野で活躍する方以外に産業界に従事している方も多く参加された。パターン・ランゲージというメソッドを様々な分野で用いている人から受ける評価はどれも建設的で、これからの使い道について考える際にも視野が大きく広がった。

後者についても、十分な成果を得ることができた。学会中に、私の論文についてライターズ・ワークショップと呼ばれる参加者間の対話形式で論文についてコメントやフィードバックを与え合う研究発表を行った。本論文では手法を提案することに加えて、パターン・ランゲージで記述することと対談文として記述することではそれぞれ異なるメリットが生まれることを書いている。この研究発表の場を利用してパターン・ランゲージで記述することがどういう意味を持つことなのかについて深い議論を交わすことができ、理解を深めることができた。また、今後どうこの理論を拡張することができるかについてや使い道についても議論をすることができ、今後の課題発見にもつながった。

4. 今後の課題

まずは今回得られたコメントやフィードバックを反映させた論文の最終稿の執筆に取り組む。今回得ることのできたコメントはどれも建設的で具体的なものばかりであったので、論文に反映させるだけでなく例えば、今回私が提案した理論の発展方法について検証するなど、実践に使っていくことも検討している。